

熊本大学附属図書館

東光原 NewsLetter

No.54 (2025.02)

図書館公認キャラ
くまぼん



CONTENTS

Kumamoto
University
Library

>> 第17回 熊本大学東光原文学賞

受賞者インタビュー 2-3p

>> 第17回 熊本大学東光原文学賞 表彰式 4p

>> 「第39回 貴重資料展」を開催しました 4p

>> 図書館のできごと 4p

第17回熊本大学 東光原文学賞

受賞作決定



発行元：熊本大学附属図書館

第17回熊本大学東光原文学賞受賞者

学長賞

画家ホールウォードは生きている 井上 玲

—質問1)受賞作へ込めた思いをお願いします。

熊本大学フィルハーモニーオーケストラサークルに所属したおかげで美術や芸術に対する関心が近頃強く、門外漢ですが芸術家の話をいつか書いてみたいと思ったのが始まりです。細々と続けてきた創作活動の果て、私の今の実力はどれほどのものか知ることも兼ねて応募しました。

—質問2)小説を書いている過程で楽しかったこと、工夫したこと、苦労したことなどを教えてください。

主要人物である二人の過去と現在と未来を一繋ぎの人生として成り立たせるために、そして二人が交わるという構成上必要不可欠となる共通点を生み出すために、それぞれの感情を細かく修正していくのが大変でした。言葉のみで彼らのあり方を確立させられるよう、文体にも気を配りました。他にも各場面や描写一つ一つが互いに結びつき合っこの作品を構成しているの、まるで大きな蜘蛛の巣を破ってしまわぬよう尽力しながら美しい形に整えていくようでした。「美しい形」とはなにか、から始まるのでずっと思考を回し続けていました。中々納得できる形が思い浮かばず苦しかったですが、同時に心底楽しいひと時でもありました。

—質問3)これから東光原文学賞に応募しようかなと思っている人へアドバイスをお願いします。

何を書くかより何を書きたいか、何を書いている時自分は楽しいのかに重きを置くべきかなと私は思います。応募者の皆さまは結構自由にテーマも文体も選んでおられますし、自分の「楽しい」は作品にも表れますから。

—質問4)あなたが好きな作家またはお薦めの作品を教えてください。

高田大介「図書館の魔女」シリーズ、オスカー・ワイルド「ドリアン・グレイの肖像」、西島伝法 短編集「金星の蟲」

—質問5)その他、伝えたい事やメッセージなどがありましたらお願いします。

かつてお世話になった文芸部顧問の先生方や本作を創るにあたって支えて下さった沢山の愛すべき友人たちに心からの敬意と感謝を。

附属
図書館
長賞

一枚目のキャンパスの魔法 江頭 扶実子

—質問1)受賞作へ込めた思いをお願いします。

この小説を書くにあたり、最も大きな影響となったのが特別支援学校での教育実習の経験でした。現代、多様な社会が実現されているように見えますが、実習で見た世界はもっと社会から遠ざかっているように感じました。しかしそんな中でも、子どもたちは夢や希望を待って、自分の人生をごく当たり前に歩んでいます。そんな普遍的で美しい世界を、彼らの視点で描くことができたらいいなという思いで書きました。

—質問2)小説を書いている過程で楽しかったこと、工夫したこと、苦労したことなどを教えてください。

自分とは異なる境遇の人物像を描き出すのは本当に難しかったです。この作品において、私にとっての「普通」は彼らには通用しません。それでも、嬉しい、悲しいと感じる心や美しいと思う景色はきっとどんな人でも同じだろうという思いを大切に、小説に向き合いました。また、文を書く時、私は等身大の自分でいようと心がけています。ありのままの私が、作品を手にとってくださった人に伝わるといいなと思いながら文章を書く工夫をしています。

—質問3)これから東光原文学賞に応募しようかなと思っている人へアドバイスをお願いします。

文を書くこと、小説を作ることそのものが、自分を成長させてくれるような気がします。文字数の多さに挫けそうになる瞬間も多々ありますが、完成した時の達成感は挑戦した人にしか得られないものだと思います。

—質問4)あなたが好きな作家またはお薦めの作品を教えてください。

L・M・モンゴメリ「赤毛のアン」

私が小学生の時からずっと好きな本です。真っ直ぐで、情熱的で、想像力豊かなアン・シャーリーは、私が創作活動を始めたきっかけでもあります。

—質問5)その他、伝えたい事やメッセージなどがありましたらお願いします。

東光原文学賞は大学在学中に挑戦したかったことの一つでもありました。ただ好きという気持ちで、小説を書くことを続けてきましたが、この度このような素敵な賞をいただくことができ、大変嬉しく思います。ありがとうございました。

受賞者4名の方々に様々なお話を伺いました！ 今後文学賞に応募したいと考えている本学学生の皆さんにとっては、参考になることも多いのではないのでしょうか。また、1月17日(金)に行われた表彰式の模様は次頁に掲載しています。受賞作品を収録した作品集は3月刊行予定です！ ご期待ください！

附属
図書館
長賞

くたばれ、マイヒーロー 坂田 悠美香

—質問1)受賞作へ込めた思いをお願いします。

電車のくだりは実体験です。「この状況を切り取られたら私は悪者にしか見えないな」と思ったのがきっかけで書きました。自分が見たものや感じたことが正義となりがちですが、相手の背景をほんの少しだけ考えられる世界であってほしいと思います。

—質問2)小説を書いている過程で楽しかったこと、工夫したこと、苦労したことなどを教えてください。

締め切りまで時間がなくいきなり書き始めたので、彼らのことをその場その場で知っていくような感覚があって楽しかったです。一方で、ヒーローである廉はほとんど自分のことを教えてくれず、審査員の先生に「廉はなぜこうなったのか」と聞かれたときもきちんと答えられませんでした。もっと彼と向き合いたかったと後悔しています。

—質問3)これから東光原文学賞に応募しようかなと思っている人へアドバイスをお願いします。

去年受賞させていただいたとき(編集注：坂田さんは第16回東光原文学賞にて『ネバーランドの黎明』で附属図書館長賞を受賞)に、私の友人が「そもそも私は物語を作ったり書いたりしようなんて思わない」と言っていました。もし書きたいという思いがあれば、きっとそれだけで十分です。

—質問4)あなたが好きな作家またはお薦めの作品を教えてください。

今年読んだ中で印象に残っているのは高瀬隼子の「おいしいごはんが食べられますように」です。にんじんの表現の仕方がとても好きでした。

—質問5)その他、伝えたい事やメッセージなどがありましたらお願いします。

このような賞に選んでいただけたのも、本を好きになるきっかけをくれた家族と周りの人たちのおかげです。そして、賞に携わっていただいたすべての方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

附属
図書館
長賞

食べる 吉野 美羽

—質問1)受賞作へ込めた思いをお願いします。

何気なく日常的に繰り返している「食べる」という行為について考え続けていたらこのような作品の形になりました。この作品を読んでいたいただいた方のお腹が空くような作品になっていたらいいなと思います。

—質問2)小説を書いている過程で楽しかったこと、工夫したこと、苦労したことなどを教えてください。

調理工程や食べ物の味の描写を詳細に書き込んでいくのが楽しかったです。また、慣用句として用いられる言葉の中に、食に関連するものが多く含まれていることに気がつき(「噛み砕いて説明する」「食い違う」など)、そのような言葉を多く作品中に盛り込んでいくのも面白く感じました。

—質問3)これから東光原文学賞に応募しようかなと思っている人へアドバイスをお願いします。

個人的に、作品を作る上で他者、読者の視点を意識することが大事だと思います。そうすることで作品中の情報の過不足などにも気づきやすくなるのではないかと。

—質問4)あなたが好きな作家またはお薦めの作品を教えてください。

恩田陸『蜜蜂と遠雷』、カズオ・イシグロ『わたしを離さないで』、九段理江『東京都同情塔』、中山七里、『さよならドビュッシー』、村上春樹『色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年』

—質問5)その他、伝えたい事やメッセージなどがありましたらお願いします。

(昨年も書かせていただきました(編集注：2024年2月発行東光原News Letter No.50に掲載)が、)自分は文芸部(前・文芸サークルセピア)に所属しながら作品を制作しています。様々なジャンルを書く人が集まっているため、多方向からの意見や刺激をもらうことができ、とても充実した環境です。ご興味がある方、ぜひ活動を覗いてみてくださいね。



第17回 熊本大学 東光原文学賞 表彰式(令和7年1月17日開催)

「熊本大学 東光原文学賞」は、熊大生の言語力向上と創造性豊かな学生の育成、さらに地域社会における文学・文化活動の中核となる人材輩出等を目的として、平成20年度に創設され、今年度で17回目を迎えました。熊本大学の前身の旧制五高では、夏目漱石や小泉八雲が教鞭をとっており、卒業生には寺田寅彦、犬養孝、下村湖人、木下順二、中野孝次らが名を連ね、数多くの文化人を輩出しています。そんな先人たちに続けという思いもこめられた文学賞です。

本年度は20篇の応募作品から、審査の結果、学長賞1篇、附属図書館長賞3篇を選出し、1月17日(金)にひご未来図書館(中央館)ラーニングコモンスにて表彰式を執り行いました。

選考委員の先生方から、「本年度も選考に迷うほどの力作揃いだった」、「受賞者以外の方も次回作に期待する」との講評をいただき、晴れやかな式となりました。受賞者の皆様、本当におめでとうございます。惜しくも受賞を逃した皆様、ご応募ありがとうございました。次回作をお待ちしております。



受賞作品は「熊本大学東光原文学賞作品集」として3月に刊行予定です。図書館内にて無料配布しますので、ぜひお手に取ってご覧ください。また、図書館ホームページでも公開します。図書館ホームページでは、過去の作品集をいつでも読むことができます。

——さあ、次はあなたも？ たくさんのご応募をお待ちしております。

図書館のできごと

2024.9~2025.1

9/30~11/18	教員による学生用図書のおすすめ(ひご未来図書館(中央館))
10/2~12/3	ロビー展示「令和6年度第1回学生選書祭」開催(ひご未来図書館(中央館))
10/2~12/3	ロビー展示「貴重資料展関連特集」開催(ひご未来図書館(中央館))
10/9~11/13	後期 文献検索講習会の開催(対面及びZoom):全6回
10/15	第4回附属図書館運営委員会
10/23~10/31	図書館TAIによる留学生・3年次編入生向け図書館ツアー開催:全7回
11/2~11/4	第39回貴重資料展「小楠に届いた手紙—横井小楠文書に見る幕末群像—」開催
11/3	公開講演会:第18回永青文庫セミナー「横井小楠の人脈と思想形成過程」「『他の非のみ唱え我が修行急り候は士君子の恥ずべき事なり』—父としての横井小楠—」
11/27	天草高等学校 ひご未来図書館(中央館)施設見学
12/3~2/4	ロビー展示「いっさい見！今年のノーベル賞」開催(ひご未来図書館(中央館))
12/4~12/12	後期 図書館TAIによるセミナー開催(Zoom及び対面):全7回
12/12	第5回附属図書館運営委員会
1/1~	オープンアクセス推進に係る論文掲載料支援制度開始
1/17	第17回「熊本大学東光原文学賞」学長賞及び附属図書館長賞発表&表彰式
1/27~2/9	除籍図書の学生への無料配布(ひご未来図書館(中央館))
1/28	第6回附属図書館運営委員会

「第39回貴重資料展」を開催

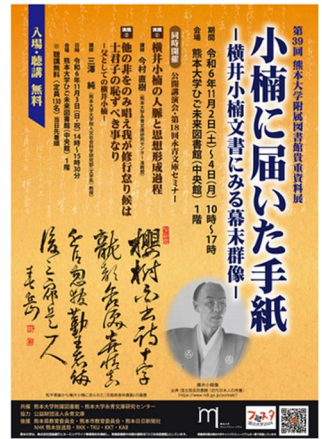
小楠に届いた手紙

—横井小楠文書にみる幕末群像—

期間:令和6年11月2日(土)~11月4日(月・振替休日)

3日間の来場者は**418名**、学外からも大勢お迎えしました。期間中に「公開講演会・第18回永青文庫セミナー」を開催。こちらにも**141名**の参加があり「小楠の思想形成、藩内での立ち位置等に関して興味深い内容でした」

「貴重な実物資料から幕末・明治の小楠を取り巻く緊迫感が感じられ大変おもしろかった」「先生方がわかりやすく話してくれて助かりました。プロフェッショナルで小楠の世界に浸れました」等の感想が寄せられました。



演題一「横井小楠の人脈と思想形成過程」

講師:今村直樹 永青文庫研究センター 准教授

演題二「『他の非のみ唱え我が修行急り候は士君子の恥ずべき事なり』—父としての横井小楠—」

講師:三澤純 熊本大学大学院人文社会科学部(文学系)教授

なお、上記「公開講演会・第18回永青文庫セミナー」は、後日動画を公開する予定です。